

第87回 簿記実務検定第3級試験問題

商業簿記

(制限時間 1時間30分)

1 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現	金	当座預金	普通預金	受取手形
売掛	金	有価証券	前払金	建物
支払手形		買掛金	前受金	仮受消費税
所得税預り金		資本金	売	上
仕	入	手形売却損	固定資産売却損	固定資産売却益

- a. 全商銀行に現金 ¥300,000 を普通預金として預け入れた。
- b. 山梨商店から商品 ¥450,000 の注文を受け、内金として ¥90,000 を現金で受け取った。
- c. 帳簿価額 ¥4,300,000 の建物を ¥3,700,000 で売却し、代金は小切手で受け取り、ただちに当座預金に預け入れた。
- d. 売買目的で長野商事株式会社の株式30株を1株につき ¥57,000 で買入れ、代金は買入手数料 ¥13,000 とともに小切手を振り出して支払った。
- e. 岐阜商店から、商品代金として受け取っていた同店振り出しの約束手形 ¥250,000 を取引銀行で割り引き、割引料を差し引かれた手取金 ¥249,000 は当座預金とした。
- f. 従業員から預かっていた所得税の源泉徴収額 ¥67,000 を税務署に現金で納付した。
- g. 静岡商店は商品 ¥756,000 (消費税 ¥56,000 を含む) を売り渡し、代金は掛けとした。ただし、消費税の処理方法は税抜き方式により、仮受消費税勘定を用いている。
- h. 事業拡張のため、事業主が現金 ¥850,000 を追加元入れした。

- 2 愛知商店の次の取引を入金伝票・出金伝票・振替伝票のうち、必要な伝票に記入しなさい。ただし、不要な伝票は空欄のままにしておくこと。

取 引

1月22日 小牧郵便局で収入印紙 ¥7,000 を買い入れ、代金は現金で支払った。

(伝票番号 No.15)

〃 日 一宮商店から借用証書によって借り入れていた ¥290,000 を小切手 #8 を振り出して返済した。

(伝票番号 No.34)

- 3 熊本商店の下記の取引について、

(1) 仕訳帳に記入して、総勘定元帳の買掛金勘定と売上勘定に転記しなさい。

(2) 仕入帳と買掛金元帳に記入して、締め切りなさい。

ただし、i 商品に関する勘定は3分法によること。

ii 仕訳帳の小書きは省略する。

iii 元丁欄には、買掛金勘定と売上勘定に転記するときだけ記入すればよい。

取 引

1月8日 佐賀商店から次の商品を仕入れ、代金は掛けとした。

A 品 600個 @ ¥700 ¥420,000

9日 佐賀商店から仕入れた上記商品の一部に品質不良のものがあつたので、次のとおり返品した。なお、この代金は買掛金から差し引くことにした。

A 品 10個 @ ¥700 ¥7,000

16日 長崎商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

A 品 400個 @ ¥950 ¥380,000

21日 福岡商店に対する買掛金の一部について、次の小切手 #9 を振り出して支払った。

DT0009	小 切 手		熊本 4301 0914-043
支払地	熊本県熊本市中央区水前寺6-18-1		
	株式会社	全商銀行熊本支店	
金額	¥190,000※		
熊本	上記の金額をこの小切手と引き替えに 持参人へお支払いください		
	平成〇年1月21日	熊本商店	熊本県熊本市中央区神水1-1-2
	振出地 熊本県熊本市	振出人 熊本太郎	(熊本)

28日 福岡商店から次の商品を仕入れ、代金のうち ¥45,000 は現金で支払い、残額は掛けとした。

B 品 700個 @ ¥350 ¥245,000

C 品 100〃 " " 500 ¥50,000

4 次の各問いに答えなさい。

- (1) 次の文の にあてはまるもっとも適当な語を、下記の語群のなかから選び、その番号を記入しなさい。

簿記の記帳方法のひとつに、企業の経営活動を貸借平均の原理にもとづいて、組織的に記録・計算・整理する方法がある。この方法を といい、今日もっとも広く用いられている。

1. 単式簿記 2. 複式簿記 3. 決 算

- (2) 次の各文の に入る金額を求めなさい。

a. 大分商店（個人企業）の当期の収益総額は ¥4,270,000 で、当期の費用総額が ¥3,590,000 であるとき、当期純利益は ¥ ア

b. 鹿児島商店（個人企業）の期首の資産総額は ¥4,380,000 負債総額は ¥2,750,000 であった。期末の資産総額は ¥5,190,000 で、この期間中の当期純利益が ¥420,000 であるとき、期末の負債総額は ¥ イ

- (3) 宮崎商店の次の勘定記録と支払手形記入帳から、（ア）と（イ）に入る金額を求めなさい。

当 座 預 金	
1/1 前期繰越	809,000
2/24 支払手形 ()	
3/10 支払手形 (イ)	

支 払 手 形	
2/24 当座預金 ()	1/10 仕 入 385,000
3/10 当座預金 ()	24 仕 入 200,000
	2/24 買 掛 金 180,000

支 払 手 形 記 入 帳

平成 ○年	摘 要	金 額	手形 種類	手形 番号	受取人	振出人	振出日	満期日	支払場所	てん末				
										月	日	摘 要		
1	10 仕 入 れ	()	約手	31	都城商店	当 店	1	10	3	10	全商銀行宮崎支店	3	10	支 払 い
	24 仕 入 れ	()	約手	32	日南商店	当 店	1	24	2	24	全商銀行宮崎支店	2	24	支 払 い
2	24 買掛金支払い	(ア)	約手	33	延岡商店	当 店	2	24	3	24	全商銀行宮崎支店			

5 九州商店（個人企業 決算年/回 12月31日）の総勘定元帳勘定残高と決算整理事項は、次のとおりであった。よって、

- (1) 決算整理仕訳を示しなさい。
- (2) 広告料勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。ただし、勘定記入は日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) 貸借対照表を完成しなさい。

元帳勘定残高

現金	¥ 698,000	当座預金	¥ 1,726,000	売掛金	¥ 1,500,000
貸倒引当金	4,000	繰越商品	870,000	貸付金	1,300,000
備品	1,000,000	支払手形	890,000	買掛金	1,479,000
前受金	150,000	資本金	4,020,000	引出金	100,000
売上	9,800,000	受取利息	39,000	仕入	5,860,000
給料	2,760,000	広告料	59,000	支払家賃	432,000
消耗品費	64,000	雑費	15,000	現金過不足 (貸方残高)	2,000

決算整理事項

- a. 期末商品棚卸高 ¥ 640,000
- b. 貸倒見積高 売掛金残高の2%と見積もり、貸倒引当金を設定する。
- c. 備品減価償却高 取得原価 ¥ 1,200,000 残存価額は零(0) 耐用年数は6年とし、定額法により計算し、直接法で記帳している。

$$\text{定額法による年間の減価償却費} = \frac{\text{取得原価} - \text{残存価額}}{\text{耐用年数}}$$

- d. 現金過不足勘定の ¥ 2,000 は雑益とする。
- e. 引出金勘定の ¥ 100,000 は整理する。

公益財団法人 全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援

第87回 簿記実務検定 3級 商業簿記 [答案用紙]

1	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		
f		
g		
h		

1 得点		2 得点		3 得点		4 得点		5 得点		総得点	
----------------	--	----------------	--	----------------	--	----------------	--	----------------	--	-----	--

年	組	番 号	名	前

2 入金伝票
平成〇年 月 日 No. _____

科目	入金先	殿				
摘要		金	額			
合計						

出金伝票
平成〇年 月 日 No. _____

科目	支払先	殿				
摘要		金	額			
合計						

振替伝票
平成〇年 月 日 No. _____

勘定科目	借方					勘定科目	貸方				
合計						合計					
摘要											

3 (1) 仕訳帳 1

平成〇年	摘要	円	借方	貸方
/ /	前期繰越高	✓	6,517,000	6,517,000

総勘定元帳 14
買掛金

平成〇年	摘要	仕	借方	平成〇年	摘要	仕	貸方
/ /	前期繰越	✓		/ /	前期繰越	✓	450,000

売上 18

平成〇年	摘要	仕	借方	平成〇年	摘要	仕	貸方

(2) (注意) 仕入帳と買掛金元帳は締め切ること。

仕 入 帳

1

平成 〇年	摘 要	内 訳	金 額

買 掛 金 元 帳

佐 賀 商 店

1

平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借 入 ま 貸	残 高
/ /	前月繰越		100,000	貸	100,000

福 岡 商 店

2

平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借 入 ま 貸	残 高
/ /	前月繰越		350,000	貸	350,000

4 (1)

(2)

ア	✖	イ	✖
---	---	---	---

(3)

ア	✖	イ	✖
---	---	---	---

2
得点

3
得点

4
得点

5 (1)

	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		

(2) (注意) 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

			広 告 料	17
3/30	現 金	29,000		
9/28	現 金	30,000		

(3)

貸 借 対 照 表

九州商店 平成〇年/2月31日 (単位：円)

資 産	金 額	負債および純資産	金 額
現 金		支 払 手 形	
当 座 預 金		買 掛 金	
売 掛 金 ()		()	
貸 倒 引 当 金 ()		資 本 金	
()		()	
貸 付 金			
備 品			

5	
得点	

第88回 簿記実務検定第3級試験問題

商業簿記

(制限時間 1 時間30分)

1 下記の取引の仕訳を示しなさい。ただし、勘定科目は、次のなかからもっとも適当なものを使用すること。

現	金	当座預金	受取手形	売掛金
貸倒引当金	有価証券	貸付金	建物	
買掛金	借入金	仮受金	所得税預り金	
売上	受取利息	有価証券売却益	仕入	
給料	貸倒損失	支払利息	有価証券売却損	
現金過不足				

- a. 現金の実際有高を調べたところ、帳簿残高より ¥2,000 少なかった。よって、帳簿残高を修正して、その原因を調査することにした。
- b. 富山商店から商品 ¥270,000 を仕入れ、代金はさきに得意先新潟商店から受け取っていた約束手形 ¥270,000 を裏書譲渡した。
- c. 得意先東西商店が倒産し、前期から繰り越された同店に対する売掛金 ¥90,000 が回収不能となったため、貸し倒れとして処理した。ただし、貸倒引当金勘定の残高が ¥120,000 ある。
- d. 京都商店に借用証書によって貸し付けていた ¥600,000 の返済を受け、その利息 ¥18,000 とともに現金 ¥618,000 を受け取った。
- e. 出張中の従業員から当店の当座預金口座に ¥130,000 の振り込みがあったが、その内容は不明である。
- f. 本月分の給料 ¥650,000 の支払いにあたり、所得税額 ¥52,000 を差し引いて、従業員の手取額を現金で支払った。
- g. 売買目的で保有している福井商事株式会社の株式100株（1株の帳簿価額 ¥7,000）を1株につき ¥8,000 で売却し、代金は当店の当座預金口座に振り込まれた。
- h. 店舗用に建物 ¥4,500,000 を購入し、代金は小切手を振り出して支払った。なお、登記料と買入手数料の合計額 ¥290,000 は現金で支払った。

- 2 石川商店の次の取引を入金伝票・出金伝票・振替伝票のうち、必要な伝票に記入しなさい。ただし、不要な伝票は空欄のままにしておくこと。

取 引

4月/2日 金沢商店から商品の注文を受け、内金として現金 ¥90,000 を受け取った。

(伝票番号 No.24)

〃 日 全商銀行に定期預金として小切手 # 8 ¥450,000 を振り出して預け入れた。

(伝票番号 No.73)

- 3 和歌山商店の下記の取引について、

(1) 仕訳帳に記入して、総勘定元帳の現金勘定と売掛金勘定に転記しなさい。

(2) 売上帳と売掛金元帳に記入して、締め切りなさい。

ただし、i 商品に関する勘定は3分法によること。

ii 仕訳帳の小書きは省略する。

iii 元丁欄には、現金勘定と売掛金勘定に転記するときだけ記入すればよい。

取 引

1月 7日 奈良商店から次の商品を仕入れ、代金のうち ¥160,000 は現金で支払い、残額は掛けとした。

A 品 850個 @ ¥260 ¥221,000

B 品 900〃 〃〃 390 ¥351,000

15日 大阪商店に次の商品を売り渡し、代金は掛けとした。

A 品 210個 @ ¥400 ¥84,000

B 品 320〃 〃〃 600 ¥192,000

17日 大阪商店に売り渡した上記商品の一部について、次のとおり値引きをおこなった。なお、この代金は売掛金から差し引くことにした。

A 品 50個 @ ¥60 ¥3,000

22日 三重商店に次の商品を売り渡し、代金のうち ¥100,000 は現金で受け取り、残額は掛けとした。

A 品 590個 @ ¥400 ¥236,000

29日 三重商店から売掛金の一部を次の約束手形 # 16 で受け取った。

No. 16 約束手形		和歌山県和歌山市砂山南3-3-94 和歌山商店 和歌山 一郎 殿		支払期日 平成〇年3月29日	四日市 2401 0914-024
収入 印紙 200円 三重	金額 ¥236,000		支払地 三重県津市	支払場所	
	上記金額をあなたまたはあなたの指図人へこの約束手形と引き替えにお支払いいたします		株式会社 全商銀行三重支店		
	平成〇年1月29日				
	振出地 三重県津市渋見町699				
	住所 三重商店				
	振出人 三重太郎				

4 次の各問いに答えなさい。

(1) 次の文の にあてはまるもっとも適当な語を、下記の語群のなかから選び、その番号を記入しなさい。

資本金勘定に対する引出金勘定のように、ある勘定の金額を修正する役割をもつ勘定を という。

1. 評価勘定 2. 統制勘定 3. 人名勘定

(2) 南北商店（個人企業）の下記の資料によって、次の金額を計算しなさい。

- a. 期間中の費用総額 b. 期末の資産総額

資 料

i	期間中の収益総額	¥ 6,419,000
ii	当期純損失	¥ 537,000
iii	期首の資産総額	¥ 3,460,000
iv	期首の負債総額	¥ 1,182,000
v	期末の負債総額	¥ 1,428,000

(3) 滋賀商店の次の勘定記録と当座預金出納帳から、(ア)と(イ)に入る金額を求めなさい。ただし、借越限度額を ¥ 500,000 とする当座借越契約を結んでいる。

当 座 預 金		当 座 借 越	
1/1 前期繰越	120,000	1/12 仕 入 ()	1/12 仕 入 50,000
10 売掛金(ア)			

当 座 預 金 出 納 帳

平成 〇年	摘 要	預 入	引 出	借 また は 貸	残 高
/ /	前月繰越	120,000		借	120,000
/ 10	彦根商店から売掛金回収	()		〃	270,000
/ 12	大津商店から商品仕入れ 小切手#25		(イ)	貸	()

5 北海道商店（個人企業 決算年/回 12月31日）の総勘定元帳勘定残高と決算整理事項等は、次のとおりであった。よって、

- (1) 決算整理事項等の仕訳を示しなさい。
- (2) 備品勘定に必要な記入をおこない、締め切りなさい。ただし、勘定記入は、日付・相手科目・金額を示すこと。
- (3) 損益計算書を完成しなさい。

元帳勘定残高

現金	¥ 610,000	当座預金	¥ 1,175,000	売掛金	¥ 2,300,000
貸倒引当金	6,000	繰越商品	740,000	前払金	196,000
備品	870,000	支払手形	1,070,000	買掛金	1,176,000
資本金	3,180,000	引出金	50,000	売上	9,413,000
受取手数料	89,000	仕入	6,090,000	給料	1,662,000
支払家賃	924,000	水道光熱費	276,000	雑費	38,000
現金過不足 (借方残高)	3,000				

決算整理事項等

- a. 期末商品棚卸高 ¥ 680,000
- b. 貸倒見積高 売掛金残高の2%と見積もり、貸倒引当金を設定する。
- c. 備品減価償却高 取得原価 ¥ 1,160,000 残存価額は零(0) 耐用年数は8年とし、定額法により計算し、直接法で記帳している。

$$\text{定額法による年間の減価償却費} = \frac{\text{取得原価} - \text{残存価額}}{\text{耐用年数}}$$

- d. 現金過不足勘定の ¥ 3,000 は雑損とする。
- e. 引出金勘定の ¥ 50,000 は整理する。

公益財団法人 全国商業高等学校協会主催・文部科学省後援

第88回 簿記実務検定 3級 商業簿記 [解答用紙]

1	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		
f		
g		
h		

1 得点	2 得点	3 得点	4 得点	5 得点	総得点
---------	---------	---------	---------	---------	-----

年	組	番 号	名 前

2

入金伝票									
平成〇年 月 日 No. _____									
科目	入金先				殿				
摘要			金額						
合計									

出金伝票									
平成〇年 月 日 No. _____									
科目	支払先				殿				
摘要			金額						
合計									

振替伝票													
平成〇年 月 日 No. _____													
勘定科目					借方		勘定科目					貸方	
合計							合計						
摘要													

3 (1)

仕 訳 帳

1

平成 〇年	摘 要	元 丁	借 方	貸 方
/ /	前期繰越高	✓	4,827,000	4,827,000

総 勘 定 元 帳

現 金

1

平成 〇年	摘 要	仕 丁	借 方	平成 〇年	摘 要	仕 丁	貸 方
/ /	前期繰越	✓	410,000				

売 掛 金

4

平成 〇年	摘 要	仕 丁	借 方	平成 〇年	摘 要	仕 丁	貸 方
/ /	前期繰越	✓	490,000				

(2) (注意) 売上帳と売掛金元帳は締め切ること。

売上帳

1

平成 〇年	摘 要	内 訳	金 額

売掛金元帳

大阪商店

1

平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借 は また 貸	残 高
/ /	前月繰越	150,000		借	150,000

三重商店

2

平成 〇年	摘 要	借 方	貸 方	借 は また 貸	残 高
/ /	前月繰越	340,000		借	340,000

4 (1)

(2)

a	¥		b	¥	
---	---	--	---	---	--

(3)

ア	¥		イ	¥	
---	---	--	---	---	--

2	
得点	

3	
得点	

4	
得点	

5 (1)

	借 方	貸 方
a		
b		
c		
d		
e		

(2) (注意) 勘定には、日付・相手科目・金額を記入し、締め切ること。

備 品		7
1/1 前期繰越	870,000	

(3) 損 益 計 算 書
 北海道商店 平成〇年/月/日から平成〇年/2月3/日まで (単位：円)

費 用	金 額	収 益	金 額
売 上 原 価		売 上 高	
給 料		受 取 手 数 料	
()			
()			
支 払 家 賃			
水 道 光 熱 費			
雑 費			
()			
()			

5	
得点	